

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ホーム運営において、介護度のアップ等から「職員数が少ないのでは…」と言うアンケート結果がある。ボランティアの活用や職員の業務量の軽減を図るなどの工夫が望まれる。	ボランティアの活用を積極的に進め、職員の業務量が結果的に軽減できれば良い。但し、危険を伴う身体介助には事前の説明と損害補償保険の加入が必須となる	入所者様が安全に生活して頂く為には、職員の健康も必要であるが、入所者様一人ひとりの身体変化を正確に把握している事が必要である。年々、業務量は入所者様のADL低下に伴い確実に増加する。職員の増員は見込めない。ボランティアの導入に踏み切る前に、多くのリスクマネジメントが必要だ。	24ヶ月
2	11	施設長は「利用者優先のグループホーム運営」と言う思いが強い。職員はその思いに応えようと精一杯頑張っている。職員がホッと息抜きできる時間が少し欲しい。	職員が日々の業務の中で、一息入れる時間と場所が確保され、結果的に、今以上の支援が提供される。	入所者様主体のサービスを継続することが、職員全員の自己実現に繋がる事だと誰もが認識している。一方で、日々の認知症介護に精神的、肉体的に困ばしている職員もいる。そのような勤務環境を変えるべく、休憩室を設置した。しかし、利用された形跡はない。管理者や施設長が率先して休憩をとるルールを作りたい。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。